

ワーキンググループにおける技術開発等の検討内容、国際情勢等を受けた戦略推進会議としての議論の方向性（案）

- 欧米中では、官民一体となって、グリーンへの取組みを将来の産業戦略として位置付け、技術開発や、ビジネスルールづくりでの先行を目論む動きが加速。
- この動きは、産業のこれまでの競争力のフェーズを一変させるものであるとともに新たな産業の主導権をめぐり争いを生む可能性。
- 日本としても、官民を挙げ、技術の確立だけでなく、社会実装、普及に至る道行きをイノベティブな制度措置等の政策と併せて戦略的かつ柔軟に実行し、常に世界をリードしていく必要があるのではないか。
- また、こうした検討を進めるにあたり、革新的環境イノベーション戦略においてあげられる39技術テーマについて、グローバルなビジネス、インフラ、制度・規制等を踏まえながら、技術開発、実証、社会実装、普及を時間軸として整理し、適時の見直しをしていくことが重要ではないか。

- 上記、仮説と方向性への御意見と対応方策のアイデア。
- これまでのワーキンググループへの評価と、今後のワーキンググループの方向性、期待するポイント。